

世界は、有機栽培の需要が増えている

世界を見渡すと、フランスとイタリア、ブラジル、台湾などで学校給食をオーガニック食材にする取り組みが始まっています。お隣の韓国では、小中高校でオーガニック給食が無償で提供されています。

日本では、世田谷区の母親たちが立ち上げた「世田谷区の学校給食を有機無農薬食材にする会」を中心として子どもたちの給食を、オーガニック食材に切り替えようと署名活動をスタートさせました。

世界は、どんどん有機栽培の需要が増え、子どもたちに質の良い食事を提供するための取り組みがされています。多くの人に自分たちが食べるものの安全性について考えていただき、これからこの日本で長い人生を歩んでいく子どもたちのために、私たち一人ひとりが考えなくてはならないと感じます。

2021年は、コロナ禍や感染症への防止対策とともに、ぜひ食の安全を考える機会になることを願っています。

※今回の内容は、第26回統合療法日本がんコンベンションの山田正彦先生の講演内容と、同じく山田正彦先生の著書「売り渡される食の安全」から一部抜粋しています。

第26回統合療法日本がんコンベンション  
DVD好評販売中!

NPO法人がんコントロール協会のホームページにて、今年のコンベンションに登壇した先生の講演 DVD を販売しています。

NPO法人がんコントロール協会HP  
➔ <https://www.npo-gancon.jp>



## 森山晃嗣からのメッセージ

ボタラボ会員の皆様、コロナ禍の中、年末年始を迎える冬ですが、お気にお過ごしでしょうか？

さて、2021年はどのような年になるでしょうか？

世界的には、新型コロナウイルスのワクチン開発が進んでいるようですが、大切なことは、ご自身とご家族、友人の健康維持・回復・発展であろうと思います。

新しい年を迎え、新たな目標を達成していくことが、元気な身体と脳を維持するために大切なことですよ。

私は現在72歳。おかげさまで元気に過ごさせていただいています。ロジャー・J・ウィリアムズ博士の「いのちの鎖栄養理論」と、自然品質を保って作物栽培に取り組み続けてくれる農場のスタッフに感謝です。

2021年、私たちは「病院の治療だけではなく、食事・栄養・マインド・心の在り方に注意を払いつつ、様々な統合療法に取り組む医師の

紹介を含め、統合療法の可能性を広める」ことに力を入れていきます。

日本がんコンベンションが1995年にスタートし、2年後の1997年4月15日に、栄養サポート製品を揃えてボタニック・ラボラトリーを設立しました。

がんでお亡くなりになる方は毎日1000人を超えています。さらには、認知症、動脈硬化、心臓病、脳梗塞、糖尿病、アレルギー、不妊症、低精子病などに悩む方は激増しています。

これらは日本社会全体で、責任を取らねばならないことだと思えます。現在の医療や薬だけで解決できる

問題ではありません。まず大切なのは、食や栄養の重要性、普段の生活習慣を見直すことです。

私たちは統合療法を「知る・学ぶ」機会を増やすために、これからもどんどんオンラインセミナーやYouTube配信などで、可能な限り発信し続けます。皆様、共にサポートをお願いします！

元気で健康でパワーあふれる人々であふれる日本を創るために！（森山晃嗣）

